

横浜国大教員留学生 寒川東中学校で国際理解授業

寒川東中学校で例年行われる横浜国大の鷺見徹也先生が指導する教員研修留学生との交流授業は今年は6月15日(水)に、学校側は留学生との会話や質問を通して、生徒のコミュニケーションの向上、日本以外の外国の理解を、留学生側は母国での教育活動の参考と日本の中学生の実態の把握を目的としておこなわれました。韓国4名、ブラジル2名の研修留学生は、午前から午後にかけて中2年生、3年生の授業を見学し、その後1年生4組に分かれて、交流授業をおこないました。母国で教師をしている中から選ばれただけに、日本語での授業の進め方もスムーズで、生徒たちも年々活発な質問や民族衣装の着付け、ゲームに積極的に参加していました。終了後横浜国大の研修留学生は昨年秋に寒川でホームステイをしたホストファミリーと半年ぶりの再会を楽しみました。



掘米校長挨拶



鷺見先生からも謝意と、留学生を紹介



校長自ら高学年の授業を案内



ブラジルの先生



韓国の先生



民族衣装を着たくて飛び出して



韓国の蹴鞠(チェギ)



掘米校長とSIEAのメンバーも一緒に



去年のホストファミリーと談笑

日本語教室バーベキューで親睦会を実施・・・6月28日(火)日本語教室では インドネシア、ベトナム、中国の学習者の皆さんとSIEA講師スタッフと一緒にバーベキューと紙芝居で親睦を深めました。

